

国際ロータリー2500地区
2019-2020年度

ロータリー・リーダーシップ研究会
(Rotary Leadership Institute : RLI)

ディスカッションリーダー (DL)の基本

ーファシリテーションの技術と心構えー

RLI 日本支部 ファシリテーター委員会・
カリキュラム委員会 副委員長
本田 博己 (RID2840 前橋)

ロータリー・リーダーシップ研究会 (Rotary Leadership Institute: RLI)

- 米国で始まった草の根的な指導力養成プログラム（1992年～）
- 現在ではRIの多地区合同奉仕プログラムとして、現在世界の410地区で採用（77%）
日本では34地区中24地区（71%）
- 目的は、質の高いリーダーシップ研修を通じてロータリークラブを活性化すること
- 参加型・双方向型の討議により、参加者のロータリー理解を深め、モチベーションを高める

RLIの理念

ロータリー・リーダーシップ
研究会(RLI)は、質の高い
リーダーシップの研修を通じて、
クラブの活性化を願う、
草の根の多地区合同プログラム
である。

RLIの目的

ロータリアンの自主性と
卓越した指導性を涵養し、
クラブの刷新性と
柔軟性を育て、
ロータリーを活性化すること。

2840地区におけるRLI研修推進の経緯

2009～10年度：2710地区のRLIセミナーを視察し、研修委員会で導入計画案を策定、諮問委員会にて承認

2010～11年度：第1分区においてパイロットスタディを実施

2011～12年度：第1期RLIセミナー実施（パート1～パート3および（安藤年度） 地区指導者育成セミナーにて卒後コース）

対象 各クラブ 会長エレクト、クラブ研修リーダー

2012～13年度：第2期RLIセミナー実施（パート1～パート3、（疋田年度） 2013年3月のPETS分科会にて卒後コース）

対象 各クラブ 会長エレクト、次年度幹事（2012～2015テキスト使用開始）

2013～14年度：第3期RLIセミナー（本田年度）

2014～15年度：第4期RLIセミナー（竹内年度）

2015～16年度：第5期RLIセミナー（生方年度）（2015～2018テキスト使用開始）

2016～17年度：第6期RLIセミナー（豊川年度）

2017～18年度：第7期 RLIセミナー（田中年度）

2018～19年度：第8期RLIセミナー（宮内年度）

2019～20年度：第9期RLIセミナー（森田年度）（2018～2022テキスト使用開始）

ディスカッションリーダーの役割

ディスカッションリーダー(DL)は、一方的にレクチャーする講師ではない。参加者が質の高い意見やアイデアの交換をするための進行役である。

= ファシリテーター
(Facilitator)

ディスカッションリーダーは、 ファシリテーター (Facilitator)

*「(討論などの)進行役、まとめ役」

＜リーダーズ英和辞典(研究社)＞

〔語源〕ラテン語 facilis (たやすい)

* **facilitation** = 容易にすること、促進

ファシリテーターの役割

1. 討論の流れをスムーズにする。
2. 参加者の活発な発言を促す。
3. 議論の交通整理をする。

ディスカッションリーダーの役割

ディスカッションリーダーの問いには「正解」が一つではないことが多い。多様な答えが返ってくるだろう。

DLの役割は、参加者全員に発言を求め、多様な意見を引き出し、参加者の気づきを促し、ロータリーに対する意欲・関心を高めること。

 ロータリアン一人一人がロータリーをより深く学ぶきっかけづくり

国際ロータリー 効果的な ファシリテーション・ガイド

ファシリテーションの基本

- ✓ 注意深く参加者の意見を聴くこと。良い聞き手としての模範を示すことが必要です。参加者の意見を言い換えてみたり、発言された内容を反復すること。
- ✓ 参加者をしっかり見つめ、グループやその参加者一人ひとりの信頼関係を保つこと。
- ✓ 参加者の経験や知識を信頼し、討論に集中すること。

- ✓ 参加者を名前で呼ぶこと。(名前で呼ぶか、苗字かはその国の文化による)
- ✓ 注意深く、その一瞬に集中すること。
- ✓ 討論が終り、その討論の達成感を得るためには、情報を整理し、関連付けてまとめること
- ✓ 提案されたすべての意見を尊重し保証すること。参加者の提案が攻撃に晒させることがあってはいけません。
- ✓ あくまでもファシリテーター(進行役)であり、自分が俳優や芸人でないことを自覚すること

あなたが参加の話に興味深く聞くべきで、
自分が関心をもたれる対象となるので
はありません。

- ✓ 参加者全員に発言を促し、様々な観点の意見を尊重し、その多様性を認めること。発言した人やしなかった人を十分認識し、バランスのとれた議論参加を促すこと。
- ✓ ガイド役であり、グループのリーダーではないこと自覚すること。
- ✓ セッションの討論結果をよく理解し、その結論に至るアプローチに柔軟な態度であること。

効果的な質問の方法

- オープン・エンド質問（自由回答式質問）
- クローズド・エンド質問（選択型質問）
- オーバーヘッド質問（全体へ向けての質問）
- リレー質問
- 指示質問（個人向け質問）
- 逆質問
- 方向転換の質問

迷惑な行動に対する対処方法

- 隣の人とおしゃべり
- 知ったかぶりをする参加者
- 講師きどりでいつまでも話す参加者
- ロータリーの立場に反対する参加者

- 無神経な発言や冗談
- DLに対する要求
- ファシリテーターとしての資格を問う質問
- 私はグループの仲間の答えは間違っていると思う
- 退屈している参加者

- 疲れている参加者
- 遅刻してきた参加者
- 早口で話しをする人
- 議題から外れた質問をしたり、答えを述べたりするとき
- いつまでも同じ問題に執拗に固守する場合

- 他の発言者の邪魔をする参加者
- グループの誰からも発言がない時
- 沢山のクロストークが起こった場合
- 答えを期待する参加者
- 間違った知識

まとめ

議題がなんであれ、**肯定的な態度**を持とう。

それが絶対必要な時以外は、**質問に答えない**こと。

いつもリラックスして**スマイル**。

ともかく、**楽しみ**ましょう！



ファシリテーションの技能を 高めるために（参考）

『英語ファシリテーションの技術』
（太田信之 日本経済新聞出版社）より抜粋

ファシリテーターの基本的な役割

1. 調整する coordinate
2. 焦点を当てる focus
3. 構造化する structure
4. ガイドする guide
5. サポートする support

ファシリテーターの基本動作

質の高い議論をするために

- 1 参加者をリードする
言葉はわかりやすく。話してもらいたい人を特定する。反応を待つ。
- 2 参加者から最大のものを引き出す
傾聴（質問と確認）
- 3 議論を発展させ、まとめる質問をする
オープンクエスチョン。クローズドクエスチョン。
巻き込みクエスチョン。エコークエスチョン。

ファシリテーターの基本動作

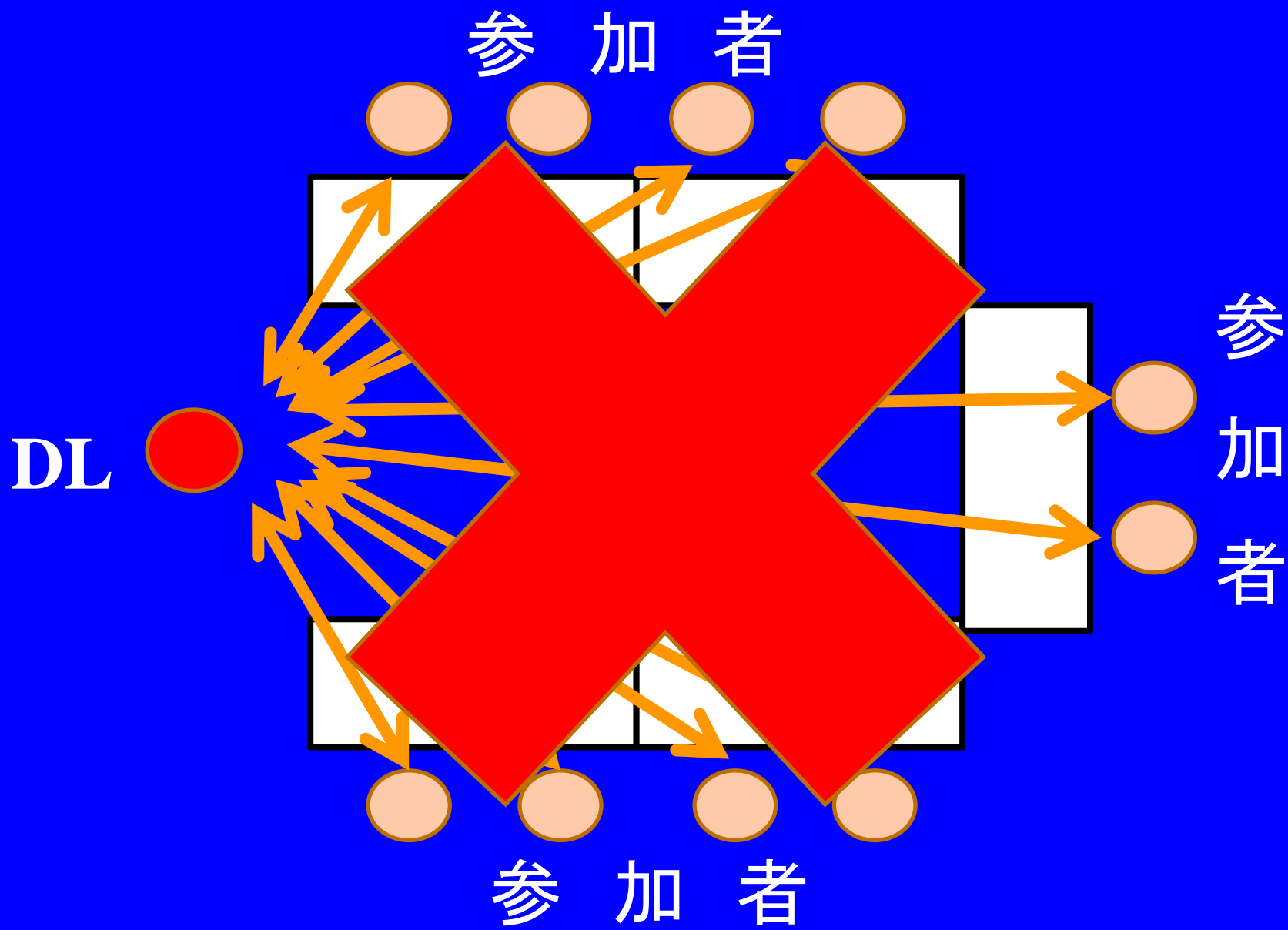
質の高い議論をするために

- 4 確認(サマリー)で議論を積み上げる
間違いや誤解を避ける。参画意識を
高め、さらに多様な意見を引き出す。
- 5 参加者との関係に注意する
間を取る。追い込まない。

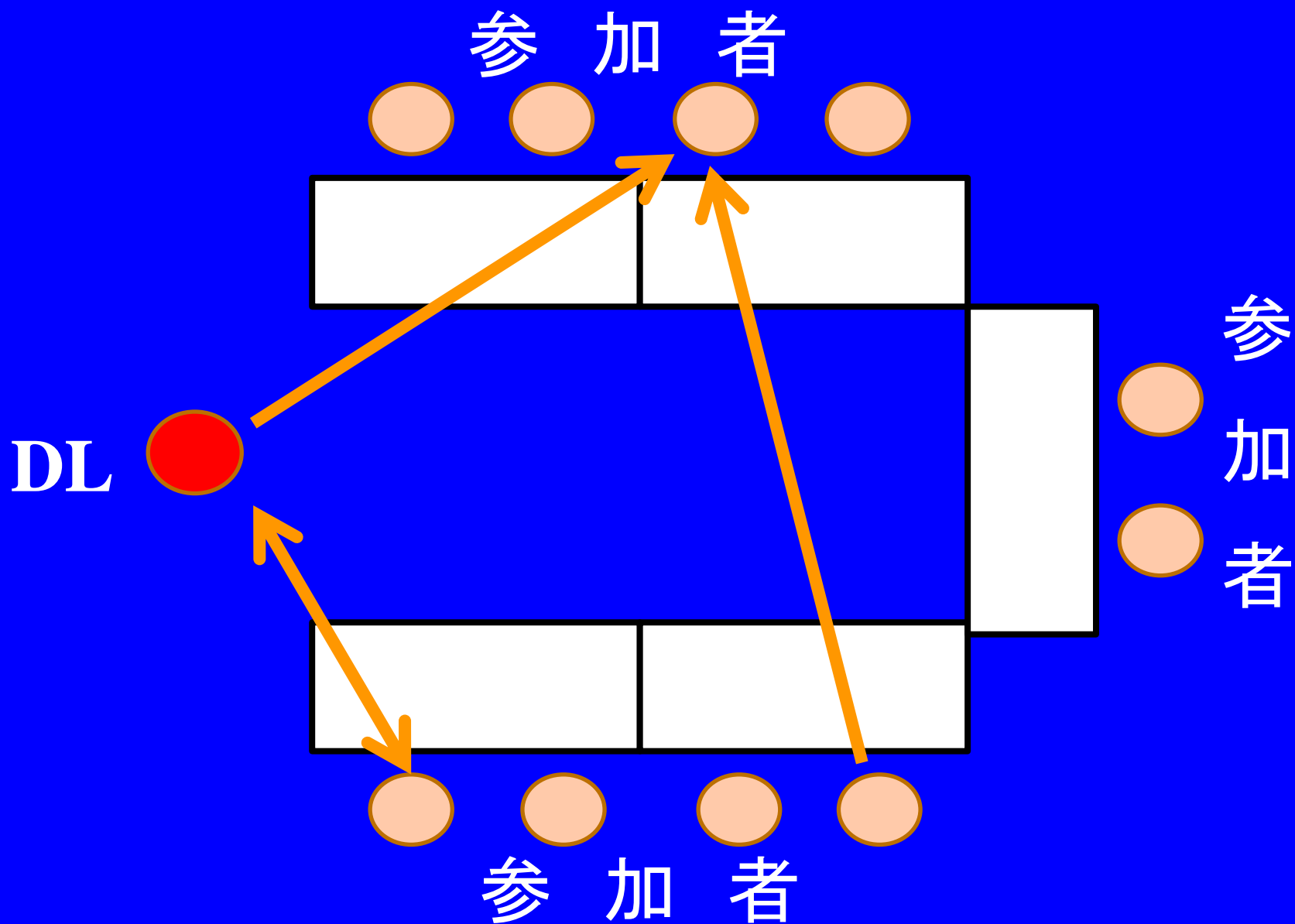
ファシリテーターの基本動作

場を活性化させるために

- 1 参加者の状態・心を正しく読む
参加者の表情やボディランゲージを読む。
積極的か、飽きていないか、内容に賛成か反対か、混乱・困惑していないか。
- 2 効果的に流れを変える
2~3人の意見交換。配布資料の音読。
- 3 問題行動に対処する
早めに軽いレベルの対応をする。
アイコンタクト、歩み寄り、ジェスチャー。



参加者との一対一のやりとりを繰り返すだけは不可



DLの発問が参加者の発言を促すきっかけとなる

討議(ディスカッション)のルール

＜参加者の心構え＞

- ① 自由に討議に参加してください。
- ② 注意深く聞きましょう。
- ③ 経験を自由に語りあいましょう。
- ④ 本題から離れないように注意しましょう。
- ⑤ 他人の発言に対して寛容に。
- ⑥ 自分と違った視点に感謝しましょう。
- ⑦ 発言は短く、的確に行ないましょう。
- ⑧ 楽しく議論しましょう。
- 参加者・DLともに、呼称は「○○さん」

《ディスカッションリーダーの心構え》

1. 参加者との人間関係づくりは、セッションが始まる前から。(暖かく歓迎する)
2. 傾聴する。(相手の思いを受け止める)
3. 目標(ゴール)を忘れず、話題の脱線を修正する。
4. オープンマインドを保つ。
自分のこだわり・プライドを捨てる。謙虚な態度、共感力、意外性を楽しむ。
5. 参加者と共に学ぶ姿勢。
私たちは、RLI エリートではない！ 講師ではない！

RLIディスカッション・リーダーが、セミナーで成功するためには、参加者に好ましいイメージを与えなければなりません。

DLの能力、信用性、熱意について、参加者が受ける印象は参加者が議題に対して抱く関心度、記憶力、実行力にまで強く影響することがある。

つまりメッセージを伝える人間自身が、そのメッセージと同じく重要になります。

学びと充足が生まれる場をどう創るか？

発創デザイン研究室 富永良史氏

ファシリテーションは、準備するが、
特定の答えに誘導しない。
即興だがちゃんと準備する。

- * (DLは)「何でも話せる 受け止めてくれる」と感じさせる在り方を
- * あなたの言葉で問いかけてください。

米国RLI本部のテキスト（2018~2022年版）
に基づいた日本版テキスト
「RLI参加者テキスト」を使用しています。

日本支部のカリキュラム委員会で、
日本版テキストのカリキュラム構成検討と
日本語訳の校閲を行いました。

2018-2021年度

カリキュラム委員会	委員長	刀根 莊兵衛PG (D2650)
	副委員長	本田 博己PG (D2840)
	委員	渡邊 和良PG (D2770)
	委員	井原 實PG (D2770)

日本版テキストの特長

1. RLI本部版(英語)では、「チーム作り」と「クラブコミュニケーション」は独立した2つのセッションだが、日本版では「チーム作りとコミュニケーション」と1つのセッションにまとめている。(パートII)
2. RLI本部版で「戦略計画とクラブの分析」はダブルセッションだが、日本版では1セッションにしている。(パートIII)
3. 日本版では、「**米山記念事業**」(パートII)と、「**規定審議会・決議審議会**」(パートIII)の2セッションを独自に設けている。

RLI 日本版「参加者テキスト」(2018-2022) コース内容

パートⅠ	パートⅡ	パートⅢ
<p>1 ロータリーにおけるリーダーシップ My Leadership In Rotary</p> <p>2 私のロータリー世界 My Rotary World</p> <p>3 倫理と職業奉仕 Ethics - Vocational Service</p> <p>4 ロータリー財団Ⅰ 私たちの財団 Our Foundation</p> <p>5 会員の参加を促す Engaging Members</p> <p>6 奉仕プロジェクトを創造する Creating Service Projects</p>	<p>1 ロータリーの機会 Rotary Opportunity</p> <p>2 効果的なリーダーシップ戦略 Effective Leadership Strategies</p> <p>3 会員を勧誘する Attracting Membership</p> <p>4 チーム作りとクラブコミュニケーション Team Building & Club Communication</p> <p>5 ロータリー財団Ⅱ 目標とする奉仕 Targeted Service</p> <p>6 米山記念奨学事業 Rotary Yoneyama Memorial Foundation</p>	<p>1 戦略計画とクラブの分析 Strategic Planning & Analysis</p> <p>2 ロータリー財団Ⅲ 国際奉仕 International Service</p> <p>3 公共イメージと広報 Public Image & Public Relations</p> <p>4 強いクラブを創る Building a Strong Club</p> <p>5 規定審議会 The Council on Legislation & Council on Resolutions</p> <p>6 変化をもたらす Making a Difference</p>

RLI セミナー ディスカッションリーダー (DL) 編成 案

セッション	パート1	パート2	パート3	チームリーダー	DL メンバー案
第 1	ロータリーにおける リーダーシップ	効果的な リーダーシップ戦略	戦略計画と クラブの分析	宮内 敦夫 (館 林)	田部井丑松 (太田) 豊泉 君代 (高崎シブフォニー) 金谷 光明 (太田西) 関口 亮二 (館林シニアム)
第 2	私のロータリー世界	チーム作りとクラブ・ コミュニケーション	私たちがロータリーを変える 規定審議会・決議審議会	本田 博己 (前 橋)	山田 邦子 (前橋) 松島 宏明 (桐生) 山田 昇一 (前橋北) 川島 理 (渋川みどり)
第 3	会員の参加を促す	会員を勧誘する	公共イメージと広報	竹内 正幸 (太 田)	佐相 正芳 (高崎東) 中村 研司 (館林) 星野 正義 (新田) 堤 康喜智 (沼田中央)
第 4	ロータリー財団 I 私たちの財団	ロータリー財団 II 目標とする奉仕	ロータリー財団 III 国際奉仕	内山 均 (高崎東)	清水 一男 (渋川) 川口 修平 (高崎南) 水石 清治 (沼田) 飯田 知義 (大泉)
第 5	奉仕プロジェクトを 創造する	米山記念奨学事業	強いクラブを創る	田中 久夫 (高 崎)	板橋 一博 (太田) 堀口 正孝 (安中) 佐藤 豊 (富岡かぶら) 梅山 哲 (高崎北)
第 6	倫理と職業奉仕	ロータリーの機会	変化をもたらす	保坂 充勇 (沼 田)	橋本 徹 (太田) 槻岡 行支 (大泉) 茂木 清七 (沼田中央) 関口 朋克 (高崎セントラル)

チーム別事前準備の進め方

0. チーム全員の連絡網（電話・メールアドレス）
1. パートI～IIIのローテーションを確認する。
2. 担当セッションのテキスト・資料を読み合わせる。
3. パートIのセッション（50分）の話題（問い）を検討し、進め方（シナリオ）を作成する。
4. パートI～IIIのセッションの話題（問い）をチームで検討し確定する。

「セッションの進め方」案(シナリオ)の作成

〈基本的な進行の手順〉

1. DL自己紹介（所属クラブ、役職、同僚紹介等） 1分
2. セッションの位置づけと目的を確認 1分
3. 「セッションの目標」の確認（質問も受ける） 3分
4. 討議 40分
導入～展開（適宜、目標：ゴールの確認）
2~3人のグループでアイデア交換、
配布資料の活用 等
5. まとめ（討議の感想、目標への到達度の確認、
参加者への感謝・激励） 3~5分

シナリオ作成のポイント

1. 目標(ゴール)に向かって、最も効果的な「問い」の組立て、議論の展開を考える。
2. シナリオ通りに討議が進行することは少ないことを覚悟し、柔軟に対応できるよう、余裕のあるプランとする。
3. 少人数での意見交換の時間や、配布資料の説明の時間を、適宜組込む。

RLIの手法をクラブ活性化に

各クラブでRLIを学んだ会員が増えてゆけば、元気なクラブへの道が開かれる。

今後DLとしてご活躍される皆様は、クラブ研修リーダーとRLI経験者を中心に、RLIの手法を元気なクラブづくりやクラブのビジョン・戦略計画づくりに応用するよう、クラブ支援にご協力いただきたいと存じます。

RID2500 2019-20年度 RLI研修セミナー

インテグリティは リーダーシップの核心

“Integrity is the heart of leadership.”

スタンフォード大学ビジネススクール
ロバート・ジョス名誉教授『リーダーシップ概論』

ディスカッションリーダー(DL)の基本 ーファシリテーションの技術と心構えー

RLI 日本支部 ファシリテーター委員会・
カリキュラム委員会 副委員長
本田 博己 (RID2840 前橋)